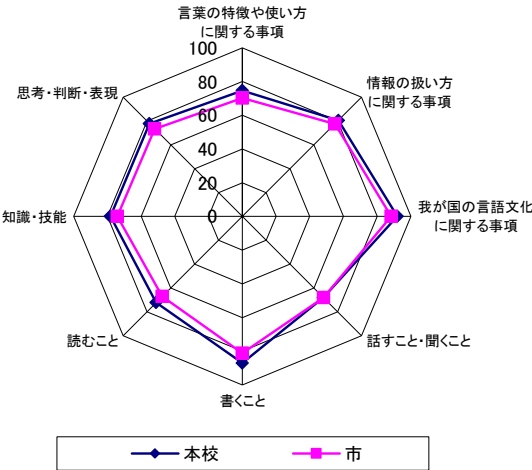


宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.6	70.2	64.7
	情報の扱い方に関する事項	80.6	77.6	71.1
	我が国の言語文化に関する事項	91.9	88.3	79.1
	話すこと・聞くこと	68.0	68.2	67.4
	書くこと	86.9	81.1	71.7
	読むこと	72.2	67.2	61.3
観点別	知識・技能	78.2	74.2	67.9
	思考・判断・表現	77.9	73.5	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

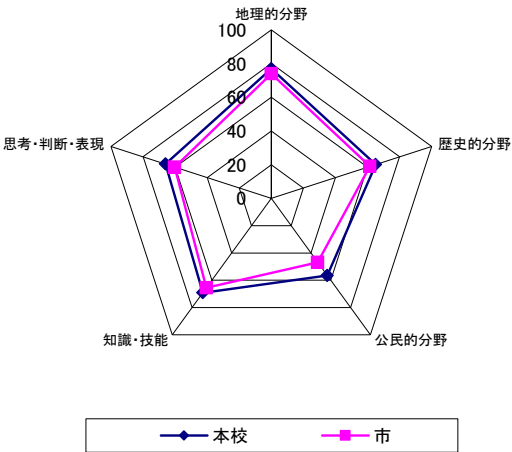
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を4.4ポイント上回っている。すべての問題で、市の平均正答率を上回っている。漢字テストを定期的実施している成果だと思われる。 ●助動詞などの品詞に関する文法問題の正答率は、市と同様に低く、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・普段からなるべくたくさん漢字を使って言葉や文章を書くように声掛けを行い、授業の始めや終わりには漢字の練習、ミニテストなどを実施し、漢字を書く機会を増やす。 ・文法事項の復習をする。特に、各学年で学習する文法事項は、こまめに確認テスト等を実施し、十分に定着させる。 ・3年生の文法事項の学習の際に、品詞の分類と各品詞の特徴について、既習事項の確認を行う。
情報の扱い方に関する事項	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を3.0ポイント上回っている。すべての問題で、市の平均正答率を上回っている。 ●説明的文章における情報の理解については、市の平均正答率を上回っているものの、他の問題に比べ差が小さく、やや苦手な様子が見られる。	・文章に示された情報と情報の関係を把握させるために、接続表現の持つ意味や文章中における役割を確認しながら文章を読むよう指導する。 ・文章中の情報の要点をとらえ、簡潔にまとめる力を身に付けさせるために、教科書で扱う文章や新聞記事の論説等を、短い字数で要約する活動を実施する。
我が国の言語文化に関する事項	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を3.6ポイント上回っている。すべての問題で、市の平均正答率を上回っている。 ○歴史的仮名遣いについては、よく理解できている。 ●古典の内容理解については、市の平均を上回っているものの、他の問題に比べ差が小さい。	・歴史的仮名遣いや古語の意味についての指導は、教科書で古典分野を扱う際に、引き続き丁寧に確認する。 ・漢字や文法の確認テストと同様、各学年の授業の際に、歴史的仮名遣いや古語の意味についての確認テストを定期的に行い、古語への知識理解の定着を図る。
話すこと・聞くこと	●領域の平均正答率は7割未満で、他の領域と比較しかなり低く、唯一、市の平均正答率を下回っている。 ●考えが伝わりやすいよう表現を工夫する問題の正答率が、市の平均正答率を3.1ポイント下回っている。 ○話の展開を予想して聞き取る問題は、市の平均正答率を2.5ポイント上回っている。	・聞き取りテストを行うだけでなく、普段の授業で板書しない発言などをメモさせたり、発言の要約や意図を問い、口頭ではなく記述させる活動を適宜行ったりする。 ・授業の中で、他教科とも関連させながらわかりやすい表現を意識したスピーチ的活動を実施する。
書くこと	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を5.8ポイント上回っている。すべての問題で、市の平均正答率を上回っている。 ○作文記述の問題では、正答率が9割を超えていて、条件を満たして書こうとする意欲が結果に表れている。 ●「わかりやすく伝わるように文章を工夫する」という問題では、表現的な力の正答率がやや低い。	・記述をさせる際、読み取った情報と情報との関係を整理・理解した上で記述をさせるため、記述の前に、読み取った情報を整理できるような発問やワークシートの工夫を行う。 ・読み取った内容をまとめ、記述させる際には、必ずその根拠となる内容がどこに書かれているのか、なぜそう考えられるのかも合わせて書くよう指導する。 ・文章のねじれや文法の誤りの指導を適宜行い、わかりやすい文章、表現を工夫した文章を書ける力を身につけさせる。
読むこと	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を5.0ポイント上回っている。すべての問題で、市の平均正答率を上回っている。 ●「情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方をとらえている」の問題は、市の平均正答率を上回っているものの、他の問題に比べ差が小さい。	・文章から読み取った情報を、抜き出し→要約→整理と段階的に行い、確認する際に読み取ったことが視覚的に分かるようなワークシートの工夫をする。 ・文学的文章は、国語科の授業だけでなく、朝の読書の時間などで積極的に読ませて、文章に親しませる。 ・説明的文章については、新聞の記事を読ませることで、論理的に説明していく文章の形式に親しませる。

宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	76.9	74.0	67.9
	歴史的分野	65.1	61.5	56.1
	公民的分野	56.5	46.9	40.7
観点別	知識・技能	69.2	65.5	60.6
	思考・判断・表現	66.0	60.2	52.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

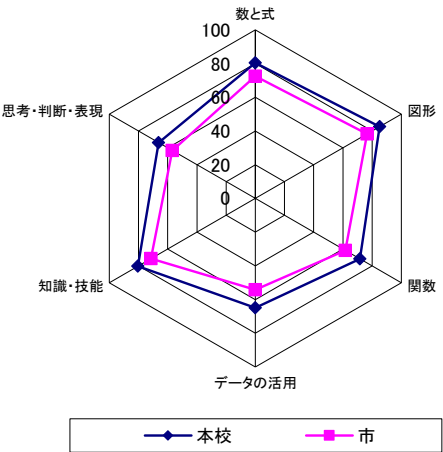
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を2.9ポイント上回っている。 ○思考・判断・表現を問う問題で、市の平均正答率を5.8ポイント上回っている。 ●西日本の農業の特色に関する問題で、市の平均正答率を2.3ポイント下回っている。	・グラフや表などの資料から情報を正しく読み取れる力を養うために、授業の中で読み取りをする機会を増やしていく。 ・日本の産業の特徴が分かるように、視覚教材を使う機会を増やししながら、自然環境や人口などと連動させ、思考力を高められるようにしていく。 ・単元を貫く学習課題をもとに、自分の考えを論述する機会を作っていく。
歴史的分野	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を3.6ポイント上回っている。 ○思考・判断・表現を問う問題で、市の平均正答率を4.1ポイント上回っている。 ●江戸幕府の大名統制について問う問題で、市の平均正答率を4.0ポイント下回っている。	・単元を貫く学習課題を設定し、学習のまとめとして、自分の考えを論述する活動を通して、思考力・判断力・表現力を高めしていく。 ・時代背景や歴史的事象の繋がりを意識できる資料を多く使いながら、多面的・多角的に歴史について考察できるように工夫していく。
公民的分野	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を9.6ポイント上回っている。 ○思考・判断・表現を問う問題で、市の平均正答率を10.5ポイント上回っている。	・単元を貫く学習課題を設定し、学習のまとめとして、自分の考えを論述する活動を通して、思考力・判断力・表現力を高めしていく。 ・既習事項をもとに、公民で学習する様々な社会問題について、いろいろな視点から考えられるように工夫していく。 ・公民の語句が単純な暗記作業にならないように、法律や制度に関連する情報を丁寧に解説するとともに、問題演習の機会を増やし、さらに知識の定着を図っていく。

宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	80.4	72.5	71.3
	図形	85.1	76.5	68.1
	関数	71.6	61.7	50.3
	データの活用	64.9	54.2	43.5
観点別	知識・技能	80.4	71.5	66.7
	思考・判断・表現	66.3	56.9	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

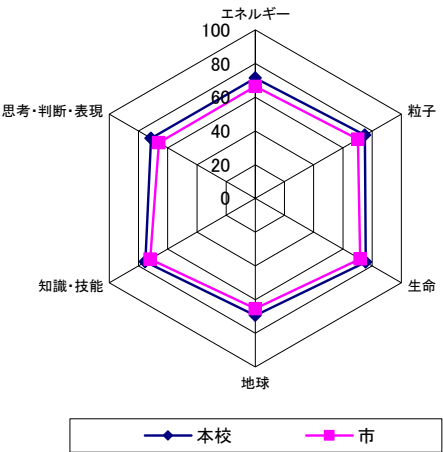
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を7.9ポイント上回っている。 ○因数分解や根号を含む四則計算、二次方程式などの問題では、市の平均正答率を10ポイント近く上回っており、基本的な計算力が身に付いている。 ●文章から方程式を立式する問題では、市の平均正答率を上回っているものの、正答率が56.9%と低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算の技能は、毎日の学習の中で定着を図ってきたこともあり、目標とする数値を達成している。今後は、用語の意味の理解にも重点を置き指導していく。 ・条件を書き出したり、図や表で情報をまとめたりといった、文章を数式に直すためのアプローチの仕方を授業で指導していく。
図形	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を8.6ポイント上回っている。 ○作図や図形の移動、証明など全ての問題で、正答率が80%を上回っており、知識・理解の定着が図られている。	・図形の性質を根拠に筋道立てて証明したり、見通しをもって作図したりする活動を通して、数学的な見方・考え方を伸ばすよう指導していく。
関数	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を9.9ポイント上回っている。 ○表からグラフの形を読み取ったり、1組のx, yの値から関数の式を求めたりする問題では、正答率が80ポイントを上回っており、表・式・グラフの関連付けができていく。 ●グラフ上に図形を作る問題では、市の平均正答率を上回っているものの、正答率が33.0ポイントと低い。	・関数と他分野の融合した問題について苦手意識が強いので、発展的な内容も授業で積極的に扱い、演習を重ねていくことで理解を深めていく。 ・関数の有用性を感じられるよう、実社会に基づく身の回りの事象について、表や式、グラフなどを用いて考えるなどの活動を取り入れていく。
データの活用	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を10.7ポイント上回っている。 ○四分位範囲や箱ひげ図について問う問題では、市の平均正答率を20ポイント以上上回っており、概ね理解している。 ●ヒストグラムから読み取り、その特徴を説明する問題では、市の平均正答率を上回っているものの、正答率が38.6%と低い。	・ヒストグラム、代表値について、基礎・基本の定着が不十分な生徒が多い。まずは、用語の意味を正しく理解させ、その上で問題演習を繰り返し、十分な知識・技能の定着を図るよう努めていく。 ・説明に言葉が足らず、うまく表現ができない生徒も多い。日々の授業の中で、自身の答えを述べる際に、根拠を明らかにして話すことを継続して指導していく。

宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	71.4	66.5	61.2
	粒子	75.0	70.2	62.3
	生命	75.6	71.8	65.7
	地球	69.4	65.4	61.0
観点別	知識・技能	75.3	72.0	67.3
	思考・判断・表現	71.5	66.0	58.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

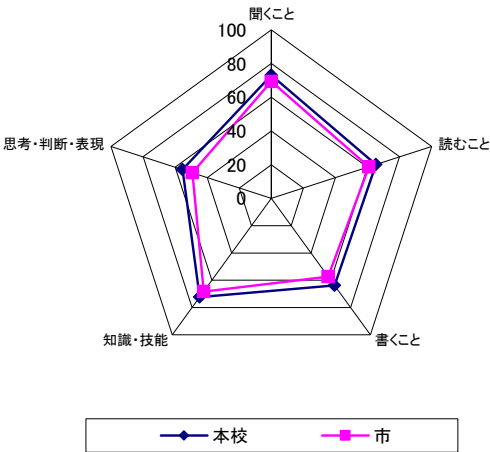
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を4.9ポイント上回っている。 ●電流の性質について、LEDといった身近なものについての電力の計算問題の正答率が6割未満で、身近な現象と結びついた問題に苦手意識が見られる。 ●力学的エネルギーの問題で、エネルギー変化をグラフで表すところの理解について不十分な部分が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎的・基本的な内容は身に付いているので、グラフ作成や表の読み取りを中心に、身近な現象との結びつきを主体的に考えられるよう指導していく。
粒子	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を4.8ポイント上回っている。 ●物質の成り立ち、水溶液とイオンについて、実験の考察を検討し改善策を見つける問題の正答率が6割未満となっており、苦手意識が見られる。	・基礎・基本は定着しているが、実験の意図や実験結果からの分析、改善策を考えることに苦手意識がある。身近な現象との結びつきを意識させ、探究する意欲を高めるところから指導していく。
生命	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を3.8ポイント上回っている。 ○植物の分類、動物のからだのつくりとはたらきについての基本的な問題は正答率が高く、よく理解している。 ●遺伝の規則性や組み合わせを考える問題はできているが、遺伝子についての理解は正答率が6割未満となっており、遺伝子の定義の部分での理解不足が見て取れる。	・植物の分類や動物のからだのしくみはよく理解しているが、生殖や遺伝子のつながりについては、実験等も行えず、実感がなく等しく理解しにくい。図や映像をもとに実感をともなった理解ができるよう指導していく。
地球	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を4.0ポイント上回っている。 ●火山噴出物について、岩石の成り立ちとマグマのねばりけ、山の形が結びついていることに理解不足が見られる。	・岩石の違いについての知識不足がみられる。身近な現象としての実体験がないので、可能な限り実物を比較し違いを見出せるようにしていく。その違いを分析し、現象と結びつけられるよう考察を行う時間を設ける。

宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	73.1	69.4	63.8
	読むこと	65.2	60.8	55.6
	書くこと	63.7	57.5	47.8
観点別	知識・技能	72.3	68.3	64.1
	思考・判断・表現	55.4	49.2	37.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を3.7ポイント上回っている。 ●日常的な話題についての英文を聞き、概要を捉える内容理解問題については、市の平均正答率を2.6ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・ALTとの授業や教員と生徒、生徒同士の対話活動などを通して、まとまりのある英語を聞くことに慣れるように指導する。 ・聞くこと・話すことと書くことを関連づけ、英語でやり取りすることに意味をもたせる活動を多く取り入れながら、各技能のスパイラルな向上を図る。
読むこと	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を4.4ポイント上回っている。 ●さまざまな英文の読み取りについての問題では、概ね市の平均を上回っているが、発言をもとに適切な文を選ぶ問題では、市の平均正答率を1.3ポイント下回っている。	・語彙を増やすために、英語→日本語で言葉を覚えさせるのではなく、英語のイメージ・概念で捉えさせる指導を継続する。 ・教科書の本文の内容をおおまかに捉える読み方を、授業の中で意識して取り入れるようにする。
書くこと	○領域の平均正答率は、市の平均正答率を6.2ポイント上回っている。3文以上の英作文を書く問題では、約75%の生徒が書くことができています。 ●語形・語法の知識・理解については、市の平均正答率を1.3ポイント下回っている。	・定期テストでは、まとまりのある5文程度の英作文を毎回課している。書く力をさらに高められるよう今後も継続的に指導していく。 ・単語テスト・単元テストを継続し、基礎的な内容が確実に身に付けられるようにする。

宇都宮市立星が丘中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自分の考えを進んで表出する生徒の育成	・グループで意見を練り合う場面や発表の場面で、ホワイトボードを活用することで自分の考えを表出しやすくする。 ・タブレット端末を活用した協働学習や意見交換などを行い、自分の考えを表出することのできる活動を取り入れる。	「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」に対する肯定的割合は、1年生が72.4%、2年生が73.8%、3年生が77.8%であり、すべての学年で宇都宮市の平均を上回っている。
・ねらいを共有し、目的をもって学ぶ生徒の育成	・毎時間のねらいの提示やこの授業で育てたい力を意識して指導することにより、生徒に授業の目標や見通しを意識させる。	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」に対する肯定的割合が2年生が65.8%、3年生が73.2%で、宇都宮市の平均を上回っているが、1年生は60.0%で宇都宮市の平均を4.1ポイント下回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

国・県・市のどの調査においても各教科・各領域の正答率は良好である。しかし、家庭学習において学習時間が不足していたり、「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」に対する肯定的回答が昨年度より下がっていることが課題である。習ったことをその日のうちに繰り返し学習することを繰り返し指導することで、学力不振の生徒も含めてさらなる学力向上を目指す。また、授業においては、表現力の向上を目指して取り組んできたため、「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」について宇都宮市を上回る結果が見られた。さらに、1人1台の端末の利用も日常化し、「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる」に対する肯定的回答が、1年生92.4%、2年生89.1%、3年生94.9%と高い結果が得られた。総合的な学習の時間や生徒会の委員会活動の発表にGoogleスライドなどを活用してまとめる活動を行い、自分の考えをまとめる力が向上している。次年度はさらに『主体的・対話的な学び』の場面の指導方法を工夫し、自分の考えを広げ深めさせる授業実践や、生徒の1人1台端末の活用場面をさらに広げていく。